月日は百代の過客にして

豊浦町議会議長　村 井 洋 一

町民の皆様、明けまして、おめでとうございます。輝かしい新春を、お健やかにお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

また、常日頃からの議会に対する温かいご厚情とご支援に対し、議員一同心より深く感謝を申し上げる次第でございます。

私たちは、昨年10月に行われました町議会議員選挙により町民の皆様からの付託をいただき、町議会議員として選出されたところでございます。

選挙戦は、定数8名に対して9名が立候補する少数激戦となりましたが、2名の新人議員が新たに選出されたことで議会にも新風が吹き一層の活性化が図られるものと期待しているところであります。

また、私こと、去る11月15日に開催されました第2回定例会11月会議の初議会において、議員各位のご推挙をいただき、伝統ある町議会の議長という要職を努めさせていただくことになりました。

誠に身に余る光栄であり、今さらながら職責の重大さを痛感しているところでございます。

もとより、私は浅学非才の身ではありますが、地方自治の伸展と議会の円滑な運営のために誠心誠意で努力するとともに、身を粉にして精進したいと考えております。

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」と『奥の細道』の序文で知られる松尾芭蕉は、「月日とは永遠の旅を続ける旅人のようだ…」と詠んでいますが…

昨年11月26日からの暴風雪に伴い室蘭市や登別市を中心に大停電が発生し、本町市街地区の1,200世帯で約6時間、新山梨地区の一部では約80時間という長時間の停電となりました。

未だ初冬とは言え、寒風吹きすさぶ夕暮れ時の停電でもあり、津波こそないものの、暖も採れないような状況は、東日本大震災の被災地の様相を彷彿とさせるものであり、改めて、今でも避難生活を余儀なくされている皆様のお気持ちがこれまで以上に理解できたところでありました。

さて、暮れの12月16日に実施されました衆議院議員選挙も自民党と公明党が合わせて総定数の3分の2を超える325議席を獲得し圧勝したところでありますが、国民の自民党への支持が拡大したというよりは、第3極への支持もさほどに増えてはいないことから民主党政権の3年2ケ月に対する不信任が如実に露呈されたものと思われます。

この紙面が発行されている頃には、臨時国会が召集され首班指名選挙も終えて、愈々安倍晋三政権が誕生しているものと思われますが、組閣人事を経て平成25年度本予算の編成や景気対策の補正予算という具体的な政策の検討が始まるものと思われます。注目すべきは、脱デフレ対策としての積極的な金融緩和と景気対策の推進という安倍総理の主張が選挙前と変わらないことを祈るのみであります。

このような時こそ、地方自治体として無駄のない効率的な施策を展開し町民が安全で安心して暮らすことができる「元気な豊浦町」にするため、議会の最大の役割と責務でもある監視機能の充実と強化に努めなければならないと考えています。

さらには、町民のニーズを把握し、的確に町政に反映させるためには町民、議会、行政の関係を具体的な事項とする「議会基本条例」と議会の会期を1年間と定めることで、監視機能の強化や災害時の緊急対応等にも議会が主導的に活動でき、効率の良い議会運営を図ることができる「通年議会」を導入し、積極的に議会改革を実践して参りましたが、地方分権の進展に伴い地方公共団体の自己決定・自己責任の範囲が拡大し、意思決定機関である議会の役割が益々重要なものとなることから、個々の議員がその責務を自覚し、自己研鑽に努めることで町民の皆様からの付託とご期待に応えられるよう町政の振興・発展のために全身全霊で立ち向かう所存でございます。

どうか、本年も議会に対しまして、これまで以上のご厚情とご支援を賜りますことを切にお願い申し上げますとともに、町民の皆様方にとっての実り多き年でありますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。